様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５１０２６６
研究課題名（和文）　食に関するローカル・ナレッジについての総合的研究
研究課題名（英文）　Integrated research on local knowledge of food

研究代表者
住村　欣範　（SUMIMURA YOSHINORI）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授
研究者番号：３０３３２７５３

研究成果の概要（和文）：
本研究では、食に関するローカル・ナレッジについて、ベトナム、ブータン、シベリアで調査を行い、文化人類学、開発学、生態人類学の視点から比較検討を行った。その結果、近代化の進行状況に合わせて、それぞれの地域および対象によって自然環境、食、人間の相関関係に相違があることが分かった。以上のことを参考として、ローカル・ナレッジの在り方について、近代的な知や市場経済との複合状況を考察し、当該テーマに関する地域研究の枠組みを構築した。

研究成果の概要（英文）：
In this study, we researched on the local knowledge about the food in Vietnam, Bhutan and Siberia, and compared research results from three points of view cultural anthropology, development studies and ecological anthropology.

As a result, it was found that in accordance with the progress of modernization, there is a difference in the correlation between natural environment, food and human beings in each subject and region. Then we considered the complex situation of the market economy and modern knowledge, we constructed a framework for area studies on local knowledge.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,700,000	510,000	2,210,000
２０１１年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２０１２年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：援助・地域協力、人類学、開発学、ローカル・ナレッジ

１．研究開始当初の背景

食は生活のあらゆる面と結びつく対象であり、人類学の分野でも早くから中心的な研究課題であった。特に、近年は、グローバル化や近代化の進展を背景に、新たなアプローチが試みられるようになっている。このような状況の中で、本研究課題では、1990 年代以降、開発の現場の中で重視されるようになってきているローカル・ナレッジと食との関係について考察するものである。

２．研究の目的

本研究では、自然と文化、近代化との関係に着目して、ベトナム、ブータン、シベリアの３つの地域の食に関するローカル・ナレッジの様態について明らかにする。

具体的な項目は、自然環境との関わりの中ではぐくまれる食に関するローカル・ナレッジ。「土着の知」が、周辺社会との関係で「伝統的な知」とされるに至るプロセス。グローバリゼーション、近代化の中で「ローカル・ナレッジ」が構築されるプロセス、である。

３．研究の方法

ベトナムにおいては、屋敷地内の生産システムや「熱／冷理論」、ブータンに関しては、食の選好性と、食と健康に関する知識。シベリアについては、動植物利用の経験値形成のプロセスと自然等の関係、および、周辺民族との交流に着目してフィールドワークを行う。また、３つの調査地での調査結果を持ち寄り、比較検討を行うものである。

４．研究成果

ベトナムでは、食生産環境の近代化の中で、農村の住民が、「科学的」な知識を受容するとともに、自家用の野菜の生産に対しては農薬の使用をやめたり、「安全野菜」を生産するようになるなど、新しい知に対応した新しい実践を行っていることが分かった。一方、食物を媒介とした薬剤耐性菌に関する調査によって、複合循環農法に関する知識が、残留抗生物質や耐性菌などの目に見えない新しい脅威に対応できないままになっており、啓蒙をともなう関与が必要であることが看取された。

ブータンにおいては、標高差を利用した多様な作物の栽培とトランスヒューマンスが行われている状況について観察した。「健康的な食事」については、「腹もちの良い食事」と理解されることが多いことも分かった。それは、農村部で特に顕著であり、肉体労働に従事している農家の人々の生活を反映したものと考えられる。

シベリアに関しては、文献調査とこれまでの研究成果の取りまとめを行った。その結果、エヴェンキ人の肉食と生態環境について、特にトナカイとヘラジカを通した環境認識が行われていることが明らかになった。

また、対象地域における近代性の嵌入状況を明らかにし、ローカル・ナレッジが、近代的な知との接触の中で再構築されていることについて理解した。

以上の研究成果に基づいて、基層、変容、介入に対応する生態人類学、文化人類学、開発学の連携が必要であることが明らかになり、実践に向けて必要となる認識を共有した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

①Yoshinori Sumimura, Trinh Hong Son (2012), “Nutritional status of mothers and children in a mountainous commune in Ninh Binh province in Viet Nam,” Journal of International Health, vol.27, no.4, 363-371、URL 無し

②住村欣範（2011）「ベトナムにおける栄養と食の安全」住村欣範編著『ベトナムにおける栄養と食の安全』 GLOCOL BOOKLET.

③Trinh Hong Son, 住村欣範共著「ニンビン省フーロック社における母子の栄養状態と影響要因」住村欣範編著『ベトナムにおける栄養と食の安全』 GLOCOL BOOKLET.

④住村欣範、Pham Ngoc Khai 共著「ベトナムにおける高齢化と栄養―タイビン省での取り組みから」住村欣範編著『ベトナムにおける栄養と食の安全』 GLOCOL BOOKLET.

⑤上田晶子（2011）「関係性、充足、バランス：国民総幸福量（GNH）の視点と実践」『科学』81（6）、540-545 頁、URL 無し

⑥思沁夫（2011）「エヴェンキ人と“肉”（トナカイとヘラジカを中心に）：文化と生態の視点から」『鄂温克族研究』中国鄂温克族研究会、59～71 頁、URL 無し

⑦思沁夫（2011）北方少数民族の伝統食から食文化の“個性”と“多様性”の可能性と課題を考える（原文　中国語）　中国農業学報Ⅲ期、122-141 頁、URL 無し。

⑧思沁夫「モンゴル高原における自然環境と遊牧生活：遊牧民の経験から」大沼克彦（編）『ユーラシア乾燥地域の農耕民と牧畜民』六一書房、1-19 頁、URL 無し

［口頭発表］

①Sumimura Yoshinori（2013 年 3 月 15 日）“One World, one health in Mekong Delta: From the perspective of Anthropology”,

International Work Shop：Food Security, Food Safety and Environment in Mekong Delta, Can Tho University, Vietnam
②Sumimura Yoshinori（2012年11月21日）Food, chemicals and modernization in Vietnam, Report meeting of GLOCOL Joint Research “Research for Food Preservation, Food Hygiene and Related Factors in Vietnam” at NIN Vietnam.
③住村欣範(2012年7月14日)「持続可能性：場と共同性」科学研究費基盤研究Ａ『フード・セキュリティの人類学的研究』国際ワークショップ「食と文化：都市部における少数民族の食の変化と安全性」(於：内モンゴル大学)
④住村欣範（2011年5月29日)「東南アジアにおける薬剤耐性菌の問題について」タイビン医科大学国際シンポジウム『分子生物学の新たな展開』
⑤Sumimura Yoshinori（2011年7月14日），“Modernization, Food, and Health: Individual Choice and the Risk,” at The International Symposium: Globalization and Ethnic Minorities: Food, Safety and Health, China Agricultural University, Beijing, China
⑥住村欣範（2010年10月25日)「グローバルコラボレーションセンターの活動」大阪大学大学院薬学研究科・GLOCOL共催、組織的な大学院教育改革推進プログラム　第2回国際シンポジウム『食と環境の安全・安心に向けたリスクマネージメント』(於：大阪大学薬学研究科2号館特別講義室)
⑦住村欣範(2010年12月22日)「SCJ Live ～ベトナムの子どもたちは今」「第67回 GLOCOLセミナー / 海外体験型教育企画オフィス（FIELDO）グローバル・エキスパート連続講座(4)」(於TKP大阪梅田ビジネスセンター9Fカンファレンスルーム9B)
⑧住村欣範（2011年3月18日)「大学院GP『健康環境リスクマネージメント専門家育成プログラム』について」大阪府立大学生命環境科学部主催、文部科学省：大学教育・学生支援推進事業動植物系教育融合による食の教育プログラム『食に関するフォーラム（仮)』(於：食フォーラム』(於：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス)
⑧Ueda Akiko（2010年8月19日），“Chilli trading practices in Bhutan: Past and present”, 12th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, 15th to 21st August 2010 at University of British Columbia, Canada.
⑨Ueda Akiko(2011年3月1日)，“Meanings of education and school in rural life in Bhutan”, The Centre for Comparative and International Education Public Seminars: “Education and the Politics of Culture and Modernisation in Bhutan” Department of Education and St Antony’s College, University of Oxford
⑩上田晶子（2012年2月27日）「ブータン農村部のフード・セキュリティと労働力不足の問題」ワークショップ『フード・セキュリティの人類学的研究』、大阪大学銀杏会館。
⑪Ueda Akiko(2013年2月28日)，“Chillies and food security in rural Bhutan”, College of Natural Resources, Royal University of Bhutan, Lobesa, Bhutan
⑫思沁夫（2011年12月10日)「モンゴル国都市部における食生活事情と健康問題」“Circumstances of Food Issues and Health Problems in Urban Mongolia” グローバル化と少数民族の食・安全・健康 Globalization and Ethnic Minorities: Food, Safety and Health (in Beijing).
⑬思沁夫（2012年7月14日～15日）中国・内モンゴル自治区・フフホト市で開催した「モンゴル人の食文化と食安全に関する国際会議」企画・口頭発表
⑭思沁夫（2012年7月29日）公衆衛生セミナー「日本における健康の社会決定要因」で「グローバリゼーションとその健康影響」講演

〔図書〕(計2件)
①思沁夫（編)『中国における食品の安全・安心』 GLOCOL（GLOCOL ブックレット 10)、145頁。
②住村欣範（編著）(2011)『ベトナムにおける栄養と食の安全』GLOCOL（GLOCOLブックレット7)、111頁。
③住村欣範（著）(2013)「メコンデルタについて」住村欣範・思沁夫共編『メコン：海外フィールドスタディの経験から』GLOCOL（GLOCOLブックレット11)、81-86頁。

〔その他〕
ホームページ等
http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/research/kaken/225102660.html

６．研究組織
(1)研究代表者
住村欣範（SUMIMURA YOSHINORI）
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授
研究者番号：３０３３２７５３

(2)研究分担者
上田晶子（UEDA AKIKO）
大阪大学・グローバルコラボレーションセ

ンター・特任准教授
研究者番号：９０４６７５２２

(3)連携研究者
思　沁夫　(SI QINFU)
大阪大学・グローバルコラボレーションセ
ンター・特任准教授
研究者番号：４０４５２４４５